

## 「垂水高等学校の浜平地区内戦争遺跡調査の取組」

1. 学校名	鹿児島県立垂水高等学校
2. 学年・人数	1学年・7人
3. 日時・場所	(1) 学習会等の日時・場所 令和7年9月17日 戦争遺構調査（垂水市浜平地区内） (2) 発表の日時・場所 令和8年2月8日（日） 垂水市市民会館
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	(1)名称・時代 ・魚雷航跡監視台場跡（ぎょらいくせきかんしだいばあと）：昭和時代 ・垂水海軍航空隊跡地：（たるみずかいぐんこうくうたいあとち）：昭和時代 (2)特徴等 垂水市浜平地区内には、1944年2月1日開隊し、1945年8月15日までの1年余りの短い期間に開設された「垂水海軍航空隊」があった。この航空隊は、教育訓練が主で、魚雷の整備や、発射訓練をおこなった。これらの施設は、魚雷監視の台場は台風により破壊された。航空隊の施設は、1945年の8月5日の垂水大空襲で、施設も練習機も焼き払われてしまった。そのため、現在も残っている戦跡は少ない。 現在では、海軍航空隊のあった記念碑及び、魚雷の航跡を監視するための海中の台場の跡、物資を保管するために使用された、もしくは避難のための地下壕が残されている。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	2025（令和7）年は、太平洋戦争終戦から80年を迎える節目であった。鹿児島県垂水市には戦争遺跡や関連資料が残っているが、これまでに総合調査は実施されてこなかった。そこで、鹿児島大学と垂水市の令和7年度包括連携事業として、垂水市内に所在する戦争関連遺跡の悉皆調査を実施した。その際に、地元の高校である垂水高校も「未来につなぐ垂水の戦争プロジェクト—鹿児島大学法文学部×垂水高等学校合同調査・ワークショップ—」というプロジェクト名で参加させていただいた。
6. 取組の様子（研究発表等）	  <p style="text-align: center;">魚雷航跡監視台場跡                      旧垂水海軍航空隊の地下壕</p>
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	・「垂水に住んでいるが、こんなところがあると知らなかったので知ることができて良かった」 「こういう歴史があったというのを忘れてはいけないという思いと、今後にも伝えていきたいと思った」